

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価(一次評価)結果報告

平成27年 月 日

協議会名:	豊山町地域公共交通会議
-------	-------------

実施事業:	確保維持事業				バリア解消促進等事業			調査等事業		
	幹線	フィーダー	離島航路	離島航空路	バリアフリー	利用環境改善	鉄道安全	調査	再編調査	協働推進
	○									○

※実施した事業に○をつけてください。

地域の交通の目指す姿:	<p>第4次総合計画の重点戦略の1つである「『生活空間』がキラリと輝くまちづくり」において、「タウンバスを中心とした公共交通の充実」を挙げており、自動車に頼らなくても、子どもや高齢者も安心して町内を回遊したり、町外へも出かけられる交通環境が整ったまちを目指して、徒歩や自転車での移動空間を整備し、タウンバスの利便性を高める。</p>
-------------	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年 月 日

協議会名: 豊山町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業地域間幹線系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通ネットワーク計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通ネットワーク計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
あおい交通株式会社 とよやまタウンバス南ルート	航空館boon(豊山町)～ 名古屋栄(名古屋市)	民間航空機生産・整備拠点事業に伴う流入者の増加に対して、他の路線バスを補完できるよう利便性向上や利用促進を図った。	A 補助対象期間の開始日以降、車両故障や自らの事故等による運休・遅延などはなく、計画どおり適切に実施された。	A 補助対象期間の開始日から平成26年9月までの利用者数は65,287人となり、目標の63,000人を約3.6%上回った。	生活交通路線としてだけでなく、通勤手段としての役割をさらに高めるため、民間航空機生産・整備拠点事業の進展を視野に利便性向上やPRに取り組む。
あおい交通株式会社 幸田・勝川線	幸田(豊山町)～ 勝川駅(春日井市)	民間航空機生産・整備拠点事業に伴う流入者の増加に対して、ダイヤを改正し、通勤者の利便性向上を図った。	A 補助対象期間の開始日以降、車両故障や自らの事故等による運休・遅延などはなく、計画どおり適切に実施された。	A 補助対象期間の開始日から平成26年9月までの利用者数は35,476人となり、目標の32,000人を約10.9%上回った。	本町にない鉄道駅へのアクセス路線であり、通勤手段としての役割をさらに高めるため、民間航空機生産・整備拠点事業の進展を視野に利便性向上やPRに取り組む。

※評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域協働推進事業)

平成27年 月 日

協議会名:豊山町地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【認定を受けた地域協働推進事業計画に基づいて実施した事業内容を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)か記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由を記載。】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割・連携のあり方等を記載。】 ※年度ごとの定量的な目標を定めている場合等にあつては、各年度の目標達成状況について把握しておくことが望ましい。
町内全6路線の公共交通マップ(一部の時刻表入り)の更新・配布	A	これまでの公共交通マップを更新・充実し、新たなマップを27年3月までに作成するため、内容の検討を行っており、適切に実施されている。	町民や利用者の意向を把握するとともに、公共交通マップをできるだけ多くの町民や利用者に見てもらえるよう関係機関と連携して周知・PRを図る。
公共交通情報にかかるWebコンテンツの作成	A	公共交通マップの更新内容に応じて、町のホームページのコンテンツを作成するとともに、町民や利用者にわかりやすく公共交通情報を提供するため、スマートフォンに対応したコンテンツを作成予定であり、適切に実施されている。	ホームページへのアクセス件数を把握して、その件数が増加するよう関係機関と連携して周知・PRを図る。
町内公共交通ネットワークの「見える化」の促進	A	公共交通利用促進ネットワークと協力し、とよやまタウンバスの時刻表情報等を平成27年度中に一部のコンテンツプロバイダの乗り換えサービスに提供できるよう取組を進めており、適切に実施されている。	そのほかのコンテンツプロバイダの乗り換え案内検索サービスにデータ提供できるよう調整を図る。

※評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。

地域間幹線系統に対する特例措置についての事業評価

協議会名 豊山町地域公共交通会議

協働推進事業計画認定協議会名 豊山町地域公共交通会議

○協働推進事業の実施状況

協働 実施 計画 事業	年度(1年目)	年度(2年目)	年度(3年目)
	<ul style="list-style-type: none"> ・住民・利用者等の意見を踏まえたわかりやすい公共交通マップの更新・配布 ・公共交通マップの更新内容に応じた町ホームページのコンテンツ作成 ・時刻情報等のデータ化にかかる調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民・利用者等の意見を踏まえたわかりやすい公共交通マップの更新・配布 ・公共交通マップの更新内容に応じた町ホームページのコンテンツ作成 ・時刻情報等のデータ化及びWebサービス開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民・利用者等の意見を踏まえたわかりやすい公共交通マップの更新・配布 ・公共交通マップの更新内容に応じた町ホームページのコンテンツ作成 ・Webサービス内容の更新
協働 実施 状況 事業	年度(1年目)	年度(2年目)	年度(3年目)
<ul style="list-style-type: none"> ・住民・利用者等の意見を踏まえたわかりやすい公共交通マップの作成 ・公共交通マップの更新内容に応じた町ホームページのコンテンツ作成 ・スマートフォンによる公共交通関連情報の提供 ・時刻情報等のデータ化及びWebサービス準備 	—	—	

※協働推進事業計画に認定された事業を実施計画欄に記載、協働推進事業計画に基づいて実施した事業を実施状況欄に記載する。

○輸送量目標の達成状況

申請番号 1 運行系統名 とよやまタウンバス南ルート

増 加 輸 送 量 標 目	年度(1年目)	年度(2年目)	年度(3年目)
	輸送量	63,000人	64,000人
実 績 輸 送 量	65,287人	—	—

申請番号 2 運行系統名 豊山幸田・勝川線

増 加 輸 送 量 標 目	年度(1年目)	年度(2年目)	年度(3年目)
	輸送量	32,000人	33,000人
実 績 輸 送 量	35,476人	—	—

申請番号 運行系統名

輸 送 量 標 目	年度(1年目)	年度(2年目)	年度(3年目)
	輸送量	—	—

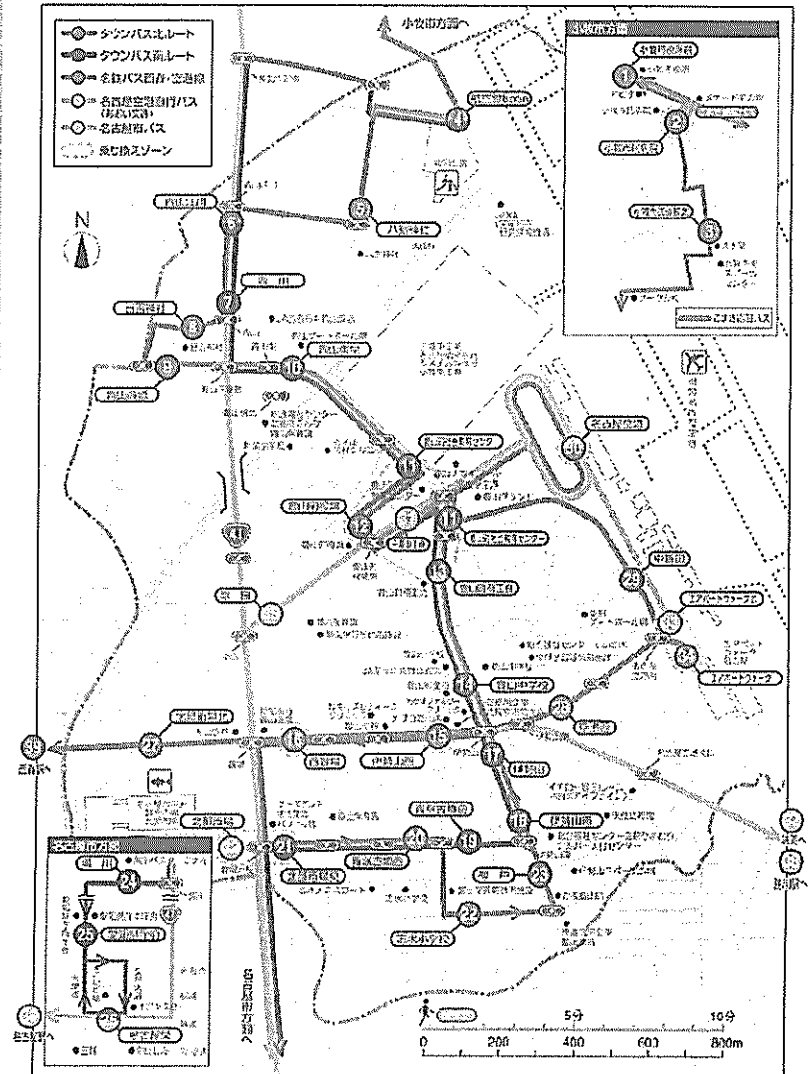
※幹線特定の適用について生活交通ネットワーク計画認定時に設定した輸送量増加目標を目標欄に記載、補助対象期間終了時の実績を実績欄に記載する。

豊山町地域公共交通会議

①協議会が目指す方向性(Plan)

- 本町は名古屋市を中心部から10kmの近さにあり、周囲を北名古屋市、小牧市、春日井市、名古屋市に囲まれている。面積は約6km²と県内最小で、約3分の1を県営名古屋空港関連の用地が占めるとともに、住宅地や各種施設などがコンパクトにまとまった構造となっている。
- 幹線道路網は充実している一方、鉄軌道は存在しておらず、バス交通が公共交通網を形成している。バスによる名古屋市中心部へのアクセス時間が約30分であり、名古屋市のベッドタウンともなっている。
- 人口は15,129人(平成26年10月1日現在)であり、本町では、平成38年まで緩やかに増加するものと見込んでいる。一方で、高齢化率は21.3%であり、愛知県全体に比べると低いですが、今後は高齢化が緩やかに進展していくものと思われる。
- 近年、県営名古屋空港の利用者が増加傾向にあるとともに、わが国初の国産小型ジェット機であるMRJ(三菱リージョナルジェット)の生産・整備拠点事業が進展しており、本町への交通需要は、今後とも増大することが予想される。
- 第4次総合計画(計画期間:平成21年度~31年度)では、重点戦略の1つである「生活空間がキラリと輝くまちづくり」において「公共交通の充実」を挙げており、とよやまタウンバスを中心として、公共交通機関の乗り継ぎや待ち時間の抵抗感をなくすとともに、広域連携の視野に立ち、自動車に頼らなくても利便性の高い効率的な公共交通の実現を目指している。地域公共交通の主な目標として、とよやまタウンバスの利用者数94,000人を掲げている。
また、都市計画マスタープラン(計画期間:平成22年~32年)では、その目標の1つとして、交通環境の改善による、歩行者、自転車ネットワークの構築、景観軸の形成、公共交通(バス)の充実により「歩いて便利で、楽しいまち」を目指している。

●バス路線図



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

1 前年度までの事業

平成24年4月から、タウンバスの南北ルートについて県道を走行する路線に変更するとともに、「豊山町商工会」のバス停を県道の新ルートに移動した。

また、平成24年4月に南ルートの青塚古墳前の運賃を400円から300円に100円値下げを行った。

このほか、平成24年度に地域公共交通利用実態調査を実施して、タウンバスの南北ルートに対する利用者ニーズの把握などを行った。

公共交通マップについては、バスの乗り方や町外のバス停の地図等の追加、ダイヤの変更情報の掲載など改良を行い、役場やバスの車内、乗車券販売所などに設置するとともに、役場の窓口で新規転入者に対して配布している「暮らしの便利帳」に公共交通マップを掲載している。

平成24年度は、とよやまタウンバス運行10周年であったため、広報とよやまに特集記事を掲載するとともに、バスの乗り方教室や無料乗車キャンペーンなどの10周年記念イベントを実施した。

このほか、平成24年10月には、愛知学泉大学の協力のもと、18歳以上の町民から無作為抽出した47人を対象に町民討議会議を開催し、本町の望ましい公共交通のあり方を話し合っていた。

2 当該年度に実施した事業

26年度(平成25年10月～26年9月)においては、これまでに引き続き、公共交通マップの作成や新規転入者に対する配布、町の広報誌やホームページによる公共交通利用のPR、高齢者が集まる場でのバスのPRなどを行った。

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

- 平成25年10月～26年9月のとよやまタウンバスの利用者数は65,287人であり、前年度に比べると約1.5%の増加となっている。また、幸田・勝川線の利用者数は35,476人であり、前年度に比べると約18.3%の増加となっている。
- 公共交通に対する住民満足度については、第4次総合計画後期基本計画の策定に当たって実施した町民・事業所意識調査(平成25年度)によると「満足」が2.8%、「やや満足」が11.3%の計14.1%となっている。前回(平成20年度)調査では、「満足」が0.8%、「やや満足」が7.8%の計8.6%であり、20年度に比べると満足度が5.5ポイント上昇している。

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

- 利用者数及び住民満足度については、これまでの取組に対する一定の成果があったと言える。
しかしながら、鉄軌道のない本町にとってバスは公共交通の中心であり、バスに対する町民のニーズや期待は大きく、今後、利用者を増やしていくためには、運行本数やルート、運賃、利便性向上や待合環境など改善すべき課題も多い。
- このため、公共交通マップや広報誌、ホームページ等を通じたPRなど、利用促進の取組を充実させるとともに、町民が集まる機会を捉えて、公共交通利用を積極的に働きかけていく。
また、交通事業者と相談しながら、バスの利便性向上や待合環境の改善などについて検討を行っていく。

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

- 公共交通マップについては、バスの乗り方や町外のバス停の地図等の追加、ダイヤの変更情報の掲載など改良を行い、役場やバスの車内、乗車券販売所などに設置するとともに、役場の窓口で新規転入者に対して配布している「暮らしの便利帳」に公共交通マップを掲載している。
- また、地域公共交通利用実態調査や町民討議会議などを通じて、公共交通に対する町民のニーズをできるだけ把握し、改善・対応に生かすようにしている。

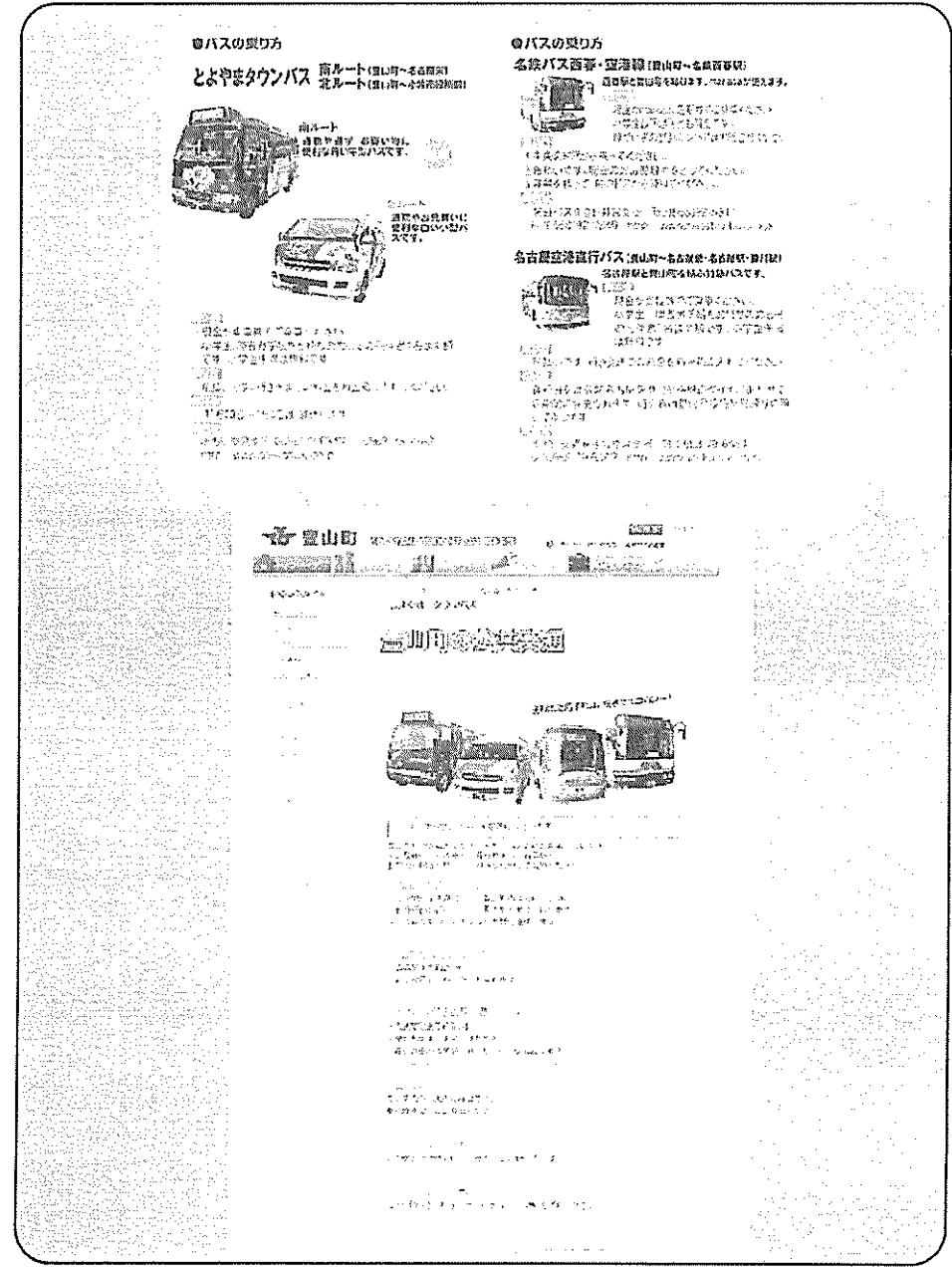
豊山町地域公共交通会議

地域協働推進事業の目的

- 地域公共交通の基本的な情報や概要について、町民や利用者への的確かつ効果的に周知するとともに、県営名古屋空港の利用者数の増加やMRJの生産・整備拠点事業の進展により、今後増大・多様化する交通需要に対して、よりわかりやすく、質の高い情報提供を行う。

地域協働推進事業の概要

- 1 地域協働推進事業計画の主な内容
取組内容として、①町内全6路線の公共交通マップの更新・配布、②公共交通情報にかかるWebコンテンツの作成、③町内公共交通ネットワークの「見える化」の促進を位置付けている。
- 2 定量的目標
とよやまタウンバス北ルート[※]の年間利用者数が、前年より増加することと、とよやまタウンバス南ルート[※]の年間利用者数対前年度増加率が伸びることを目標としています。
- 3 地域協働推進事業計画の事業実施状況(補助事業・単独事業を含む)
・住民・利用者等の意見を踏まえたわかりやすい公共交通マップの作成
・公共交通マップの更新内容に応じた町ホームページのコンテンツ作成
・スマートフォンによる公共交通関連情報の提供
・時刻情報等のデータ化及びWebサービスの準備
- 4 協議会の開催状況、議論の概要(予定を含む)
地域公共交通会議を2回開催(8月5日、12月22日)し、地域協働推進事業の実施状況について報告を行い、会議の構成員から意見をいただいた。今後、27年3月頃に開催する地域公共交通会議においても実施状況を報告する予定。



協働推進事業に対する評価

- 公共交通マップやホームページの作成、スマートフォンによる情報提供については27年3月頃の予定であり、適切に実施している。なお、地域住民の意識や地域公共交通の利用促進につながっているかの評価を行うには一定の期間を要する。
- また、時刻表検索サイトへの公共交通情報の提供については、平成27年度中の実施に向けて調整しており、適切に実施している。

生活交通ネットワーク計画への影響

- 公共交通マップやホームページの作成、スマートフォンによる情報提供、時刻表検索サイトへの公共交通情報の提供は平成26度末から27年度にかけての予定であり、生活交通ネットワーク計画の影響を把握するには一定の期間を有する。
- なお、平成25年10月～26年9月の利用者数は、とよやまタウンバス南ルートが65,287人(前年度比約1.5%増)、幸田・勝川線が35,476人(前年度比約18.3%増)となっており、ともに生活交通ネットワーク計画の目標値を上回っている。

アピールポイント(特に工夫した点)

- 公共交通マップやホームページについては、地域公共交通利用実態調査や町民討議会議などを通じて得られた公共交通に対する町民のニーズをできるだけ反映するようにした。とりわけ、バスの利用者は外出中に公共交通情報を検索・入手することが多いことから、スマートフォンを通じた公共交通情報の提供に取り組んでいる。

次年度以降の計画への反映等

- 今年度の取組をさらに充実するとともに、公共交通情報の「見える化」については、情報提供する検索サイトの拡大を図っていく。